千葉県八千代市

追分塚発掘調査報告書

１９９５

八千代市追分塚調査会

例　　言

1．本書は、宗教法人安養院の墓地造成事業に伴う八千代市追分塚（おいわけつか）の発掘調査報告書である。
2．追分塚は、八千代市島田台字追分736－1に所在する。
3．発掘調査は、宗教法人安養院の委託により、八千代市教育委員会の指導のもと、八千代市追分塚調査会が実施した。
4．発掘調査面積は、1,570㎡である。
5．調査期間は平成7年5月8日から同年6月26日、整理及び報告書作成期間は平成7年12月4日から同年12月15日である。
6．本書の編集・執筆は、武藤健一が行なった。
7．遺物及び記録等の資料は、八千代市教育委員会で保管している。
8．発掘調査及び報告書作成に際しては、関係諸機関並びに多くの方々に御指導、御協力をいただいた。記して深く謝意を表します。

千葉県教育委員会、八千代市教育委員会、宗教法人安養院、株式会社創建エンジニアリング

八千代市追分塚調査会組織

会　　長	八角　敏正〔平成7年5月14日まで〕	八千代市教育委員会生涯学習部長
	村越　利光〔平成7年5月15日から〕	八千代市教育委員会生涯学習部長
委　　員	八角　敏正〔平成7年5月14日まで〕	八千代市教育委員会生涯学習部長
	村越　利光〔平成7年5月15日から〕	八千代市教育委員会生涯学習部長
	山崎　信悟	株式会社創建エンジニアリング代表取締役
監　　査	山崎　信悟	株式会社創建エンジニアリング代表取締役
事務局長	今井　利久	八千代市教育委員会生涯学習部社会教育課長
事務局係長	酒井　久男〔平成7年5月14日まで〕	八千代市教育委員会生涯学習部社会教育課文化係長
	小名木伸雄〔平成7年5月15日から〕	八千代市教育委員会生涯学習部社会教育課文化係長
事務局員	秋山　利光	八千代市教育委員会生涯学習部社会教育課文化係主事
	森　　竜哉	八千代市教育委員会生涯学習部社会教育課文化係主事
調査担当	武藤　健一	八千代市教育委員会生涯学習部社会教育課文化係主事
調査補助員	磯江 公子　岩井 アヤ　岩瀬 道子　笠川 千代子　木村 しづ子　小島 保江	
	斉藤 節子　田村 美恵子　東原 和男　中尾 恭子　早坂 英子　原田 雪子	
整理補助員	岩瀬 道子　斉藤 節子	

目　　次

例　　言
八千代市追分塚調査会組織
目　　次

第１章　序　　章 …… 1
第１節　調査に至る経緯 …… 1
第２節　遺跡の立地と環境 …… 1
第３節　調査の方法と経過 …… 4

第２章　検出された遺構と遺物 …… 5
第１節　塚 …… 5
第２節　土坑 …… 6

第３章　まとめ …… 9

報告書抄録 …… 10

挿 図 目 次

第１図　追分塚及び周辺遺跡位置図 …… 2
第２図　追分塚周辺地形図 …… 3
第３図　塚平面図 …… 5
第４図　塚出土遺物 …… 6
第５図　土坑実測図 …… 6
第６図　土坑出土遺物 …… 6
第７図　塚断面図 …… 7・8

写真図版目次

図版１　(1)　塚調査前全景
(2)　塚調査前全景
(3)　大日如来像
(4)　塚調査中全景
(5)　塚トレンチ完掘状況
(6)　塚トレンチ完掘状況
(7)　塚断面
(8)　塚断面

図版２　(1)　塚断面
(2)　塚盛土撤去状況（南半分）
(3)　土坑遺物出土状況
(4)　土坑完掘状況
(5)　調査風景
(6)　調査風景
(7)　塚出土遺物
(8)　土坑出土遺物

第1章　序　　章

第1節　調査に至る経緯

宗教法人安養院より八千代市島田台字追分736－1他の土地について、平成6年9月27日付けで墓地造成に伴う「埋蔵文化財の所在の有無及びその取り扱いについて（照会）」が提出された。これを受けた千葉県教育委員会及び八千代市教育委員会は、照会地が土師器の包含地として周知された遺跡（追分遺跡）の範囲内であり、また古墳（追分古墳）も1基所在することから、遺跡ありの回答を行なった。その後、千葉県教育委員会・八千代市教育委員会・宗教法人安養院の間で今後の取り扱いについて協議を行なった結果、事業の計画上現状保存が困難なため、やむ得ず記録保存の措置を講ずることとなった。

平成7年1月12日から1月24日までの期間、八千代市教育委員会は遺跡の範囲・性格を把握するための確認調査を実施した。その結果、遺構は検出されず、照会地は周知された遺跡の範囲内であるが、遺構の分布が非常に稀薄な地域であることが確認された。また古墳は遺物の出土もなく、周溝も検出されなかったことから、古墳ではなく中・近世の塚である可能性が高いと判断された。その後この結果に基づいて、千葉県教育委員会・八千代市教育委員会・宗教法人安養院の間で再度協議が重ねられた結果、塚部分のみ本調査を実施することとなった。本調査は、宗教法人安養院の委託を受けて八千代市追分塚調査会が、八千代市教育委員会の指導のもと、平成7年5月8日から6月26日までの期間実施した。

第2節　遺跡の立地と環境

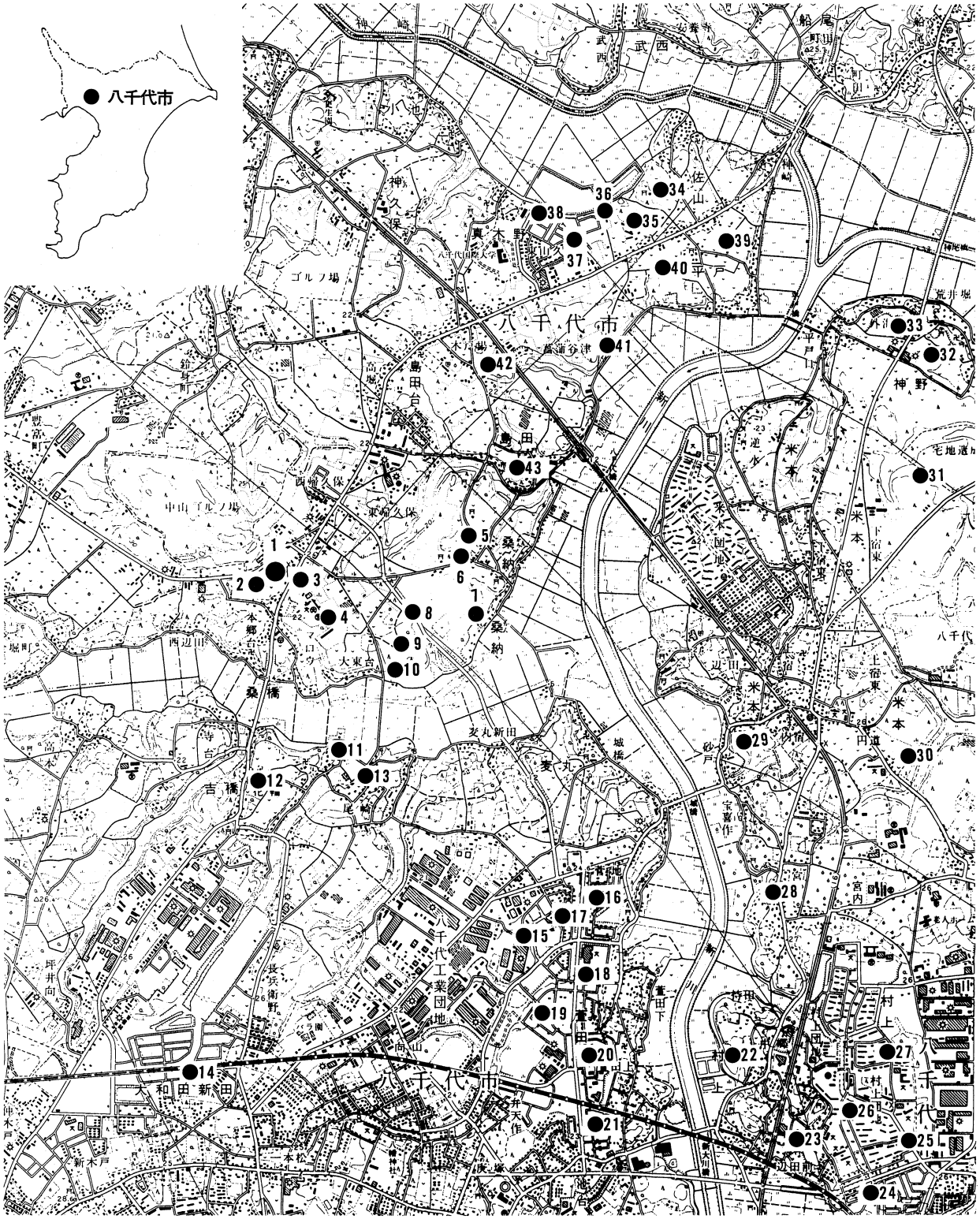
追分塚は、八千代市島田台字追分736－1に所在する。追分塚の所在する八千代市は、千葉県北部に広がる下総台地の西部に位置している。下総台地は標高20～40m前後の起伏が非常に少ない洪積台地で、長期間の浸食作用によってできた樹枝状の谷によって開析されている。八千代市は市中央部を南北に縦断し印旛沼へ流れている新川（旧平戸川）とその支流で市北西部を東西に流れる桑納川とによって大きく3つの台地に区分されており、これらの台地も複雑に入り込む樹枝状の谷によって開析されている。追分塚は市北西部の桑納川から北に入り込む谷の最奥部の台地上平坦部に位置しており、標高は23m前後を測る。桑納川沿いの低地との比高差は約17mである。追分塚の南側には、江戸時代からの主要道で木下街道の裏道にあたる「きおろし道」（県道船橋・印西線）が走っている。

追分塚の周辺には多くの遺跡が分布している。先土器時代の遺跡としては、萱田遺跡群の権現後遺跡、北海道遺跡、井戸向遺跡、白幡前遺跡、坊山遺跡、ヲサル山遺跡などがあり、特に坊山遺跡では6段階にわたる文化層が検出されている。八千代市域の先土器時代の遺跡の調査例は萱田遺跡群に集中している。

縄文時代の遺跡としては、後期主体の貝塚である佐山貝塚や神野貝塚などが著名であるが、その他に、早期の炉穴群が検出された瓜ヶ作遺跡やヲサル山遺跡、低地から刳船が出土した大江間遺跡、前期集落跡のヲイノ作南遺跡、中期集落跡のヲサル山南遺跡などがある。八千代市域の縄文時代の遺跡の調査例は少ない。

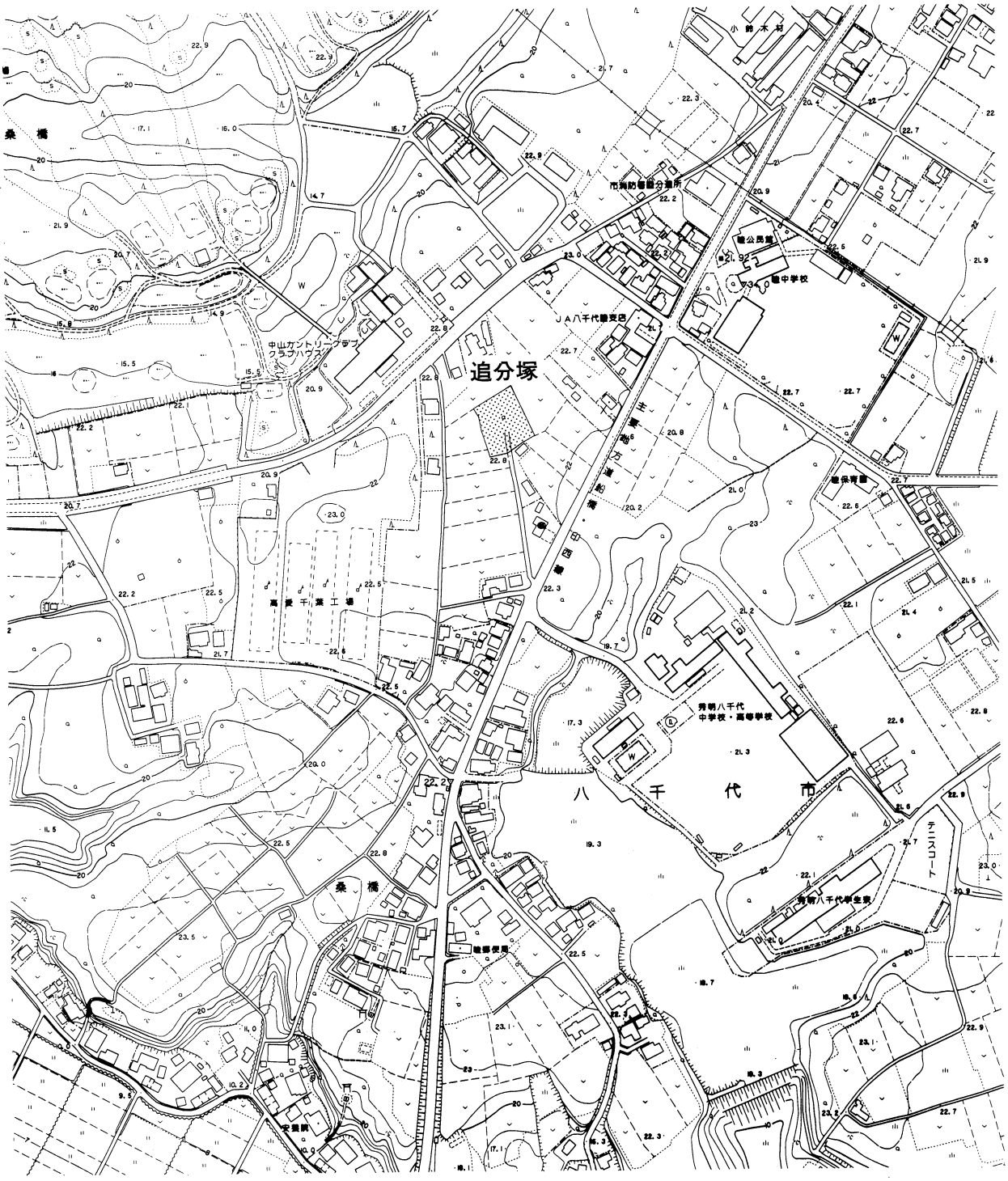
弥生時代の遺跡としては、中期の環濠集落である田原窪遺跡が注目される。宮ノ台期の単独集落であり、多数の大陸系磨製石斧や炭化米が出土している。後期の遺跡では、集落跡と方形周溝墓群が検出された栗谷遺跡をはじめ、桑橋新田遺跡、平戸道地遺跡、阿蘇中学校東側遺跡や萱田遺跡群の権現後遺跡、北海道遺跡、白幡前遺跡、ヲサル山遺跡などがある。

古墳時代では、墳丘に多数の埴輪をめぐらしている帆立貝式の桑納古墳群、石枕が出土した神野芝山



1. 追分塚　2. 追分遺跡　3. 作ヶ谷津庚申塚　4. 作ヶ谷津遺跡　5. 桑納前畑遺跡　6. 熊野神社群集塚　7. 桑納古墳群　8. 桑納遺跡　9. 桑橋新田遺跡　10. 大東台塚　11. 吉橋城跡　12. 渋内遺跡　13. 尾崎館跡　14. ヲイノ作南遺跡　15. ヲサル山南遺跡　16. 権現後遺跡　17. ヲサル山遺跡　18. 北海道遺跡　19. 坊山遺跡　20. 井戸向遺跡　21. 白幡前遺跡　22. 正覚院館跡　23. 根上神社古墳　24. 村上塚群　25. 村上供養塚　26. 名主山遺跡　27. 込ノ内遺跡　28. 七百余所神社古墳　29. 米本城跡　30. 阿蘇中学校東側遺跡　31. 栗谷遺跡　32. 神野貝塚　33. 神野芝山古墳群　34. 佐山貝塚　35. 田原窪遺跡　36. 田原窪古墳群　37. 佐山台遺跡　38. 瓜ヶ作遺跡　39. 平戸道地遺跡　40. 平戸台古墳群　41. 間見穴古墳群　42. 島田塚群　43. 島田城跡

第1図　追分塚及び周辺遺跡位置図（1：35,000）



第２図　追分塚周辺地形図（１：5,000）

古墳群、貝化石岩の横穴式石室を有する沖塚古墳などの他、田原窪古墳群、平戸台古墳群、間見穴古墳群、根上神社古墳、七百余所神社古墳などの古墳がある。集落跡では、佐山台遺跡、田原窪遺跡、桑橋新田遺跡、桑納遺跡、萱田遺跡群の権現後遺跡、北海道遺跡、井戸向遺跡、ヲサル山遺跡などがある。特に佐山台遺跡は、前期の住居跡が229軒検出された大集落跡として注目される遺跡である。また、ヲサル山遺跡や井戸向遺跡では、古墳時代初めの方形周溝墓群も検出されている。

奈良・平安時代の遺跡としては、新川を挟んで両岸の台地上に所在する村上遺跡群（名主山遺跡、込ノ内遺跡）と萱田遺跡群がよく知られている。両遺跡群は、『和名類聚抄』にある「下総国印旛郡村神

郷」に推定されている遺跡で、墨書土器が多数出土している。特に「村神郷」という文字が書かれた墨書土器が出土した権現後遺跡や人面墨書土器が出土した白幡前遺跡、「承和五年二月十」の墨書土器が出土した北海道遺跡などが注目される。また、井戸向遺跡では小形仏像や三彩陶器、白幡前遺跡では瓦塔が出土し、寺院跡と考えられる遺構も検出されていることから、庶民への仏教の浸透が伺える。これら村上遺跡群や萱田遺跡群以外にも追分塚の近隣では追分遺跡、作ヶ谷津遺跡、桑納前畑遺跡などの遺跡が調査されている。

中世の遺跡としては、堀底より板碑や金銅製の花瓶が出土した正覚院館跡をはじめ、米本城跡、吉橋城跡、尾崎館跡、島田城跡などの城館跡がある。いずれも新川や桑納川沿いの台地上に所在している。また、城館跡以外にも、地下式坑群が検出された渋内遺跡、井戸向遺跡などがある。近世になるとこの周辺では民衆の信仰の対象として塚が多数造られるようになる。調査されたものでは村上供養塚、村上塚群などがある。村上供養塚では古銭が多数納められた2個の壷が、村上塚群からは多数の古銭と小皿がまとまって盛土の下から出土している。追分塚の近隣にも作ヶ谷津庚申塚、熊野神社群集塚、大東台塚などの塚がある。

第3節　調査の方法と経過

本調査は、平成7年5月8日から6月26日にかけて行なわれた。まず、塚及び調査区の地形測量を実施した。その後、塚に十字になるようにセクションを組み、これに沿って1.5m幅のトレンチを設定し、土層の観察を行ないながら、このトレンチを旧表土面まで掘り下げ、遺構の有無について精査を行なった。そして塚の盛土の断面の実測を行なったのちトレンチ調査を終了した。その後、その結果をふまえて、盛土内の遺構・遺物に留意しながら重機により旧表土面まで盛土の撤去を行ない、旧表土面下の遺構の有無について精査を行なった。重機による盛土の撤去と旧表土面下の精査は、廃土置場の関係から塚の南半分と北半分の2回に分けて行なわれ、これにより調査を終了した。

調査の結果、周溝や主体部等の塚に伴う施設は検出されなかったが、盛土中より古銭が出土した。また、塚の中央の旧表土面下より平安時代の土坑が1基検出された。

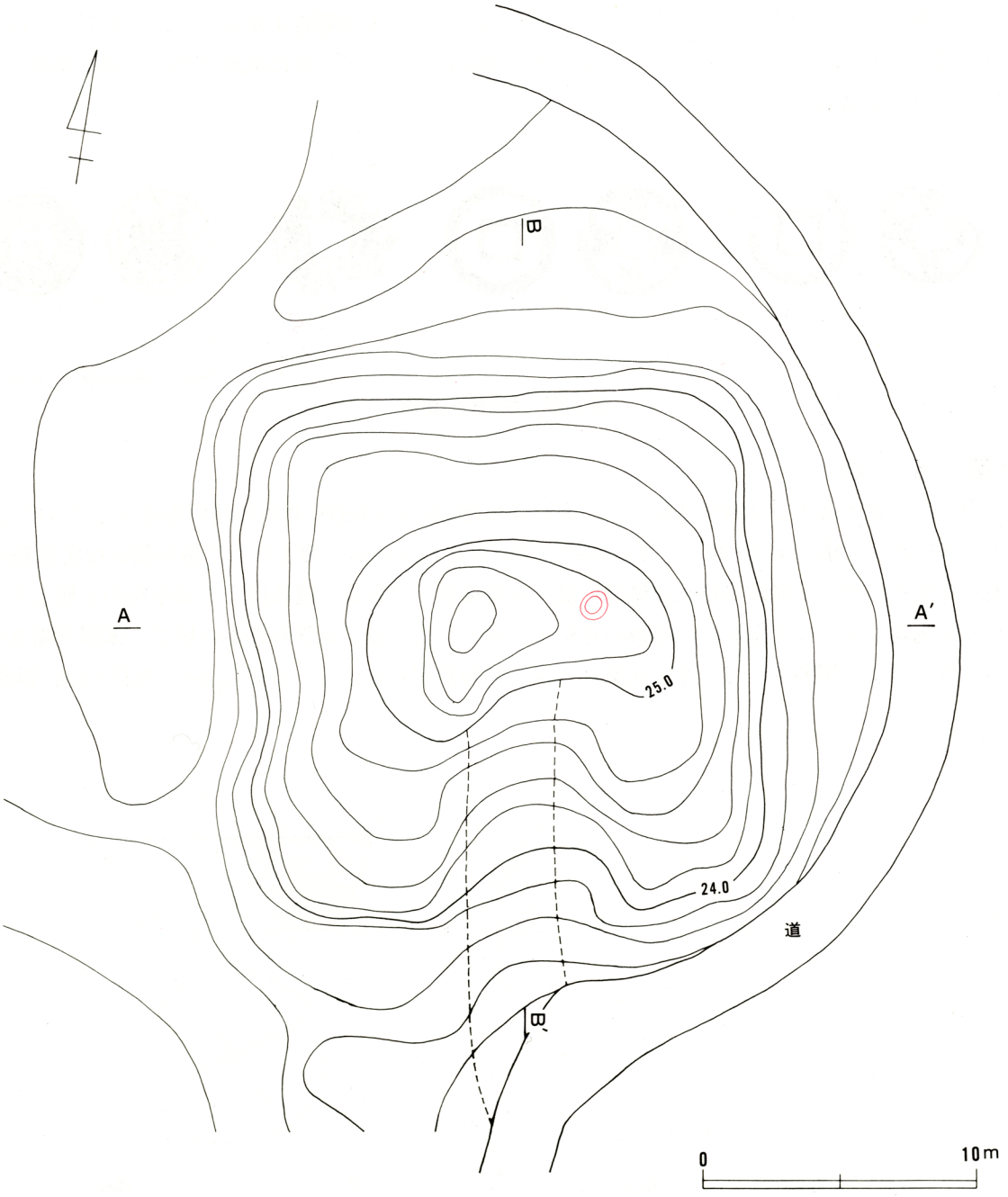
参考文献

八千代市教育委員会　『八千代の遺跡』　1983
八千代市史編さん委員会　『八千代市の歴史　資料編　原始・古代・中世』　1991
八千代市教育委員会　『千葉県八千代市市内遺跡発掘調査報告　平成5年度』　1994
八千代市教育委員会　『千葉県八千代市市内遺跡発掘調査報告　平成6年度』　1995
八千代市教育委員会　『平成6年度　八千代市埋蔵文化財調査年報』　1995

第２章　検出された遺構と遺物

第１節　塚

本塚は木下街道の裏道である「きおろし道」（県道船橋・印西線）から約130m程北側に入ったところに位置しており、現況は山林であった。塚頂部には大日如来像が祀られており、「きおろし道」から塚までは南北に真っすぐ参道がのびている。大日如来像は「きおろし道」が走っている南を向いてお堂の中に安置されており、そのわきには出羽三山の碑３基と古峯神社の碑１基が建てられていた。

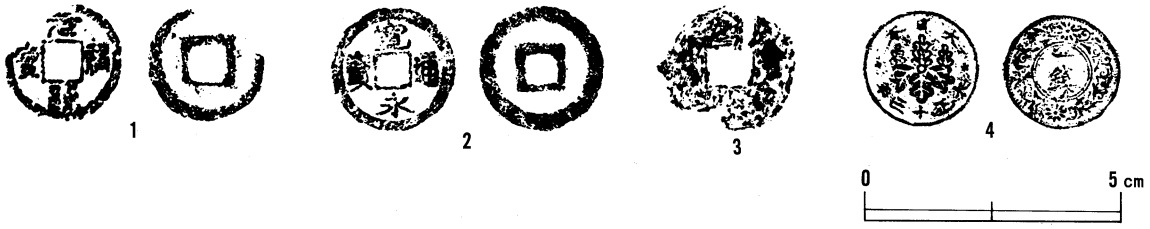


第３図　塚平面図

塚の形状は、東西約21.4m、南北約21.5mの方形を呈している。現況での高さは約2.5m、旧表土面から塚頂部までの盛土の高さは約2.3mで、塚頂部の標高は25.68mである。中段で傾斜が比較的緩やかな部分がある二段構築的様がみとめられる。なお、塚の南側は塚頂部に祀られている大日如来像の参道のため盛土の表層が削られている。

塚の盛土は旧表土層を基盤として築かれている。旧表土層は焼土が混じる黒色土で、部分的に焼土ブロックも含んでいる。構築の方法は、黒色土・黒褐色土を主体とした土とロームが多量に混じった褐色土を、東側で一部外縁部から盛土をしているところがあるものの、概ね水平に互層状に積み上げているといえる。全体的に軟弱ではなく、しまりのあるしっかりとした構築の盛土である。

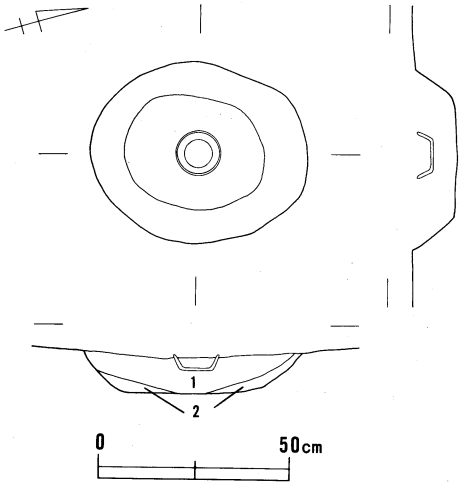
塚の盛土下からは平安時代の土坑１基が検出されたが、周溝や主体部等の塚に伴う施設は検出されなかった。遺物は古銭が４枚出土している。１は元祐通宝で、旧表土層直上からの出土である。２は寛永通宝で、盛土上層からの出土である。３、４は表土層からの出土で、３は銭種不明の穴開き鉄銭、４は大正13年発行の１銭貨である。



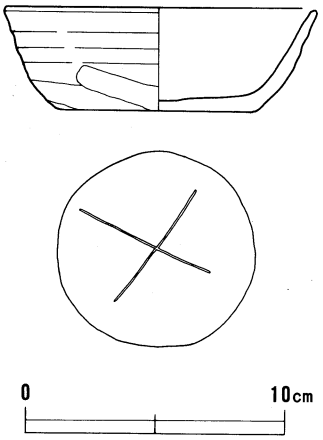
第４図　塚出土遺物

第２節　土　坑

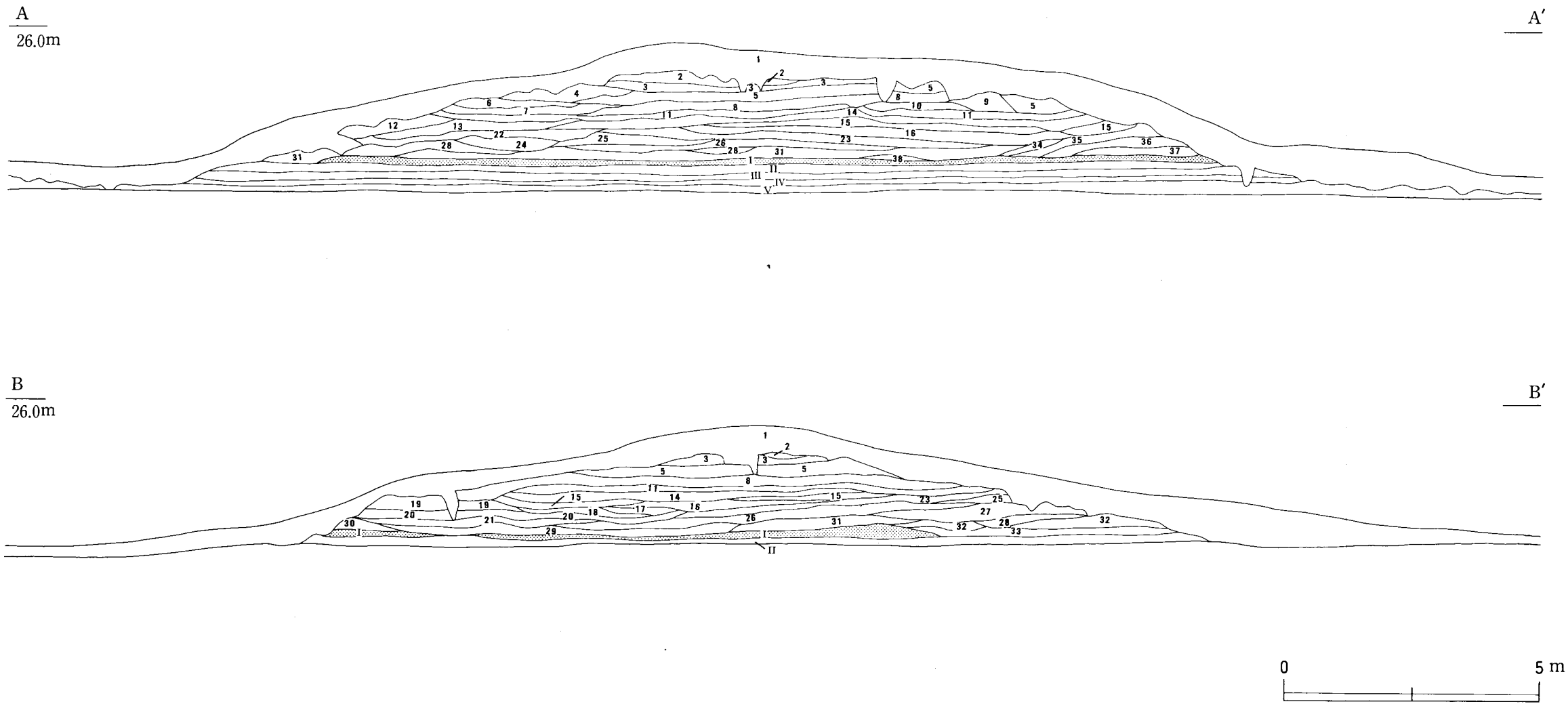
塚の中央の旧表土面下より検出された。平面形は長径0.57m×短径0.48mの楕円形を呈しており、深さは0.11mを測る。底はほぼ平坦で、壁は斜めに掘り込まれている。覆土は、１層が細かな炭化物が多量に混じる黒色土で、２層は黒色土が微量に混じる暗褐色土である。遺物は、土坑中央の１層より多量の細かな炭化物に混じって完形の土師器の坏が１点出土している。ロクロ使用の坏で、体部下端及び底部はヘラ削りにより調整されており、底部に「×」の線刻がみられる。口径12.2cm、底径7.7cm、器高4.0cmを計る。



第５図　土坑実測図



第６図　土坑出土遺物



土層説明

1．表土層
2．黒色土層　しまりなし、ローム粒を微量含む
3．褐色土層　ロームを多量含む。黒色土を微量含む。
4．黒褐色土層　しまりなし。褐色土を少量含む。ローム粒を微量含む。
5．黒色土層　ローム粒を微量含む。
6．褐色土層　ロームを多量含む。
7．黒褐色土層　褐色土を少量含む。ローム粒を微量含む。
8．黒色土層　5層より色調やや暗い。ローム粒を微量含む。
9．褐色土層　しまりなし。ロームを多量含む。
10．褐色土層　ロームを多量含む。
11．黒褐色土層　しまりなし。褐色土を少量含む。ローム粒を微量含む。
12．黒褐色土層　ローム粒を少量含む。
13．黒色土層　褐色土を少量含む。
14．暗褐色土層　ロームを多量含む。黒褐色土を少量含む。
15．黒色土層　ローム粒を微量含む。
16．褐色土層　ロームを多量含む。黒色土を微量含む。
17．黒色土層　褐色土を少量含む。ローム粒を微量含む。
18．黒褐色土層　褐色土、ロームを少量含む。
19．褐色土層　ロームを多量含む。
20．黒色土層　褐色土を少量含む。ローム粒を微量含む。
21．黒色土層　ローム粒を微量含む。
22．黒褐色土層　焼土粒、ローム粒を微量含む。
23．黒褐色土層　ロームを少量含む。
24．黒色土層　ローム粒を少量含む。焼土粒を微量含む。
25．黒色土層　ローム粒を微量含む。
26．黒褐色土層　褐色土、ロームを少量含む。
27．褐色土層　ロームを多量含む。
28．褐色土層　ロームを多量含む。
29．黒褐色土層　ロームを少量含む。
30．黒褐色土層　焼土粒、ロームを微量含む。
31．黒色土層　ローム粒を少量含む。
32．黒褐色土層　褐色土を少量含む。ローム粒を微量含む。
33．褐色土層　ロームを多量含む。黒色土を微量含む。
34．黒色土層　褐色土を少量含む。ローム粒を微量含む。
35．褐色土層　ロームを多量含む。
36．黒褐色土層　ローム粒を微量含む。
37．褐色土層　ロームを多量含む。

Ⅰ．黒色土層　旧表土層。焼土及び焼土ブロックを少量含む。
Ⅱ．黒色土層
Ⅲ．暗褐色土層
Ⅳ．ローム漸移層
Ⅴ．ソフトローム層

第7図　塚断面図

第3章　まとめ

今回の調査では、近世の塚1基と平安時代の土坑1基を検出することができた。本章では、塚について簡単にふれてみたい。

塚の頂部には「下総桑橋村講中」「宝暦十三癸未十月吉日」の銘のある大日如来像が祀られていた。大日如来像はお堂の中に安置されており、そのわきには、昭和十一年と昭和廿四年銘、建立年銘なしの出羽三山の碑3基と明治廿六年銘の古峯神社の碑1基が建てられていた。また、天保十四年（1843年）に描かれたこの地区の地図である『桑橋村村絵図』には、塚と大日如来像を安置したお堂が描かれている。これらから、大日如来像を祀ったこの塚が古くから地元の人々の信仰の対象であったことを知ることができる。さらに、戦前までこの地区（旧桑橋村）では、毎年9月1日に獅子舞が舞われていたそうである。獅子舞が舞われたのは、この地区の檀那寺（安養院）、オボスナ様（熊野神社）、区長宅、そして大日如来像が祀られているこの塚の前であった。このことからも、この塚がこの地区の人々にとって神社や寺とともに重要な祭祀の場であったことがうかがえる。

今回の発掘調査では、出土遺物も稀少であり、周溝や主体部等の塚に伴う施設も検出されなかった。そのため、発掘調査の結果から塚の構築の目的及び性格を明らかにするのは難しい。しかし、盛土中より古銭が出土していることから、塚の構築年代は古銭（寛永通宝）の流通した時期と前述の『桑橋村村絵図』から考えて、17世紀半ばから19世紀初め頃と想定することができるであろう。また、地元の人の言い伝えによると、この塚は大日如来像が造立された時にそれを祀るために造られたということである。真否は定かではないが、大日如来像の造立年と想定した構築年代が重なることから、塚が大日如来像を祀るために該期に構築された可能性は高いといえる。

最後に塚の盛土下の旧表土層に混入する焼土について少しふれておきたい。塚の旧表土層中には、焼土の混入が認められ、部分的に焼土ブロックも含んでいる。野村幸希氏は、塚の基盤上に認められる希薄な焼土痕は塚構築の聖域を設定し、祭礼を行なった痕跡としている（野村1979）。しかし、本塚からはそれを裏付けるような資料は検出されておらず、どのような行為の結果によるものであるのかは不明であるといわざるをえない。

参考文献

野村幸希　「下総における「塚」の類型」『立正史学』46　1979

野村幸希　「塚」『日本歴史考古学を学ぶ』中　有斐閣　1986

野村幸希　「中・近世塚の調査と研究の現状」『考古学ジャーナル』274　ニューサイエンス社　1987

㈶千葉県都市公社　『八千代市村上遺跡群』　1975

㈶印旛郡市文化財センター　『高岡遺跡群Ⅰ』　1993

㈶印旛郡市文化財センター　『篠山新田六ケ塚遺跡発掘調査報告書』　1994

㈶千葉県文化財センター　『君塚市滝原塚』　1991

八千代市史編さん委員会　『八千代市の歴史　資料編　近世Ⅰ』　1989

八千代市史編さん委員会　『八千代市の歴史　資料編　民俗』　1993

八千代市歴史民俗資料館　『《企画展》獅子の世界』　1994

報告書抄録

ふりがな	ちばけんやちよしおいわけつかはっくつちょうさほうこくしょ
書名	千葉県八千代市追分塚発掘調査報告書
編著者名	武藤健一
編集機関	八千代市追分塚調査会
所在地	〒276 千葉県八千代市大和田新田312-5（八千代市教育委員会生涯学習部社会教育課内）
発行年月日	西暦1995年12月31日

所収遺跡名（ふりがな）	所在地（ふりがな）	コード		北緯	東経	調査期間	調査面積	調査原因
		市町村	遺跡番号					
追分塚（おいわけつか）	八千代市島田台字追分（やちよし しまだいあざ おいわけ）736-1	12221	45	35度44分11秒	140度5分18秒	19950508～19950626	1,570㎡	墓地造成

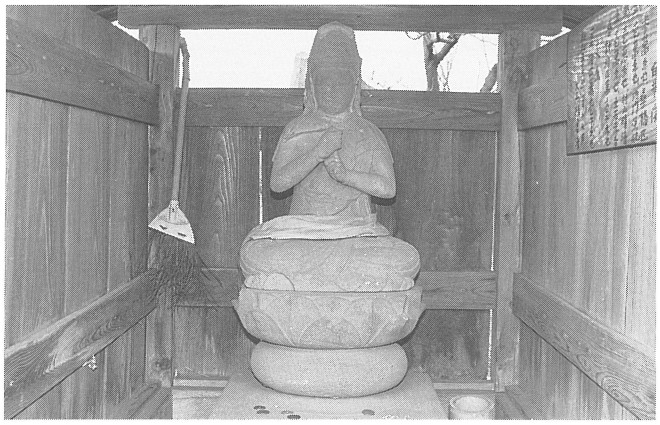
所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物	特記事項
追分塚	塚	近世	塚１基	古銭	
	包蔵地	平安時代	土坑１基	平安時代土師器	

写 真 図 版

図版 1

(1) 塚調査前全景

(2) 塚調査前全景



(3) 大日如来像

(4) 塚調査中全景

(5) 塚トレンチ完掘状況

(6) 塚トレンチ完掘状況

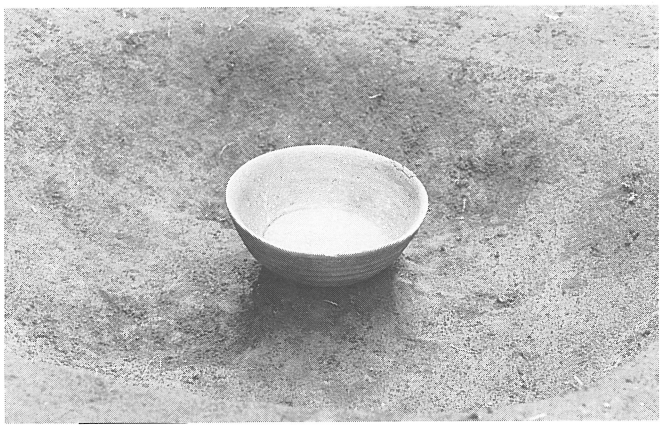
(7) 塚断面

(8) 塚断面

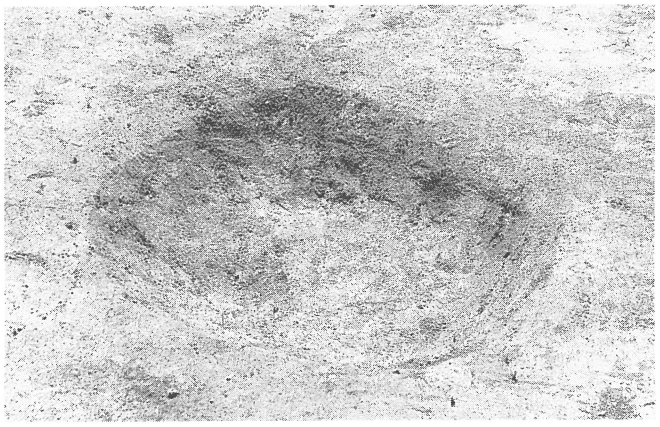
図版 2

(1) 塚断面

(2) 塚盛土撤去状況（南半分）



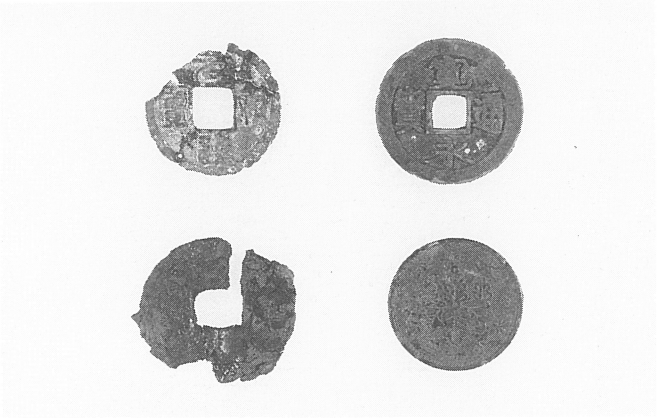
(3) 土坑遺物出土状況



(4) 土坑完掘状況

(5) 調査風景

(6) 調査風景



(7) 塚出土遺物

(8) 土坑出土遺物

千葉県八千代市

追分塚発掘調査報告書

平成７年12月28日　印刷
平成７年12月31日　発行
編集・発行　八千代市追分塚調査会
千葉県八千代市大和田新田312-5
（八千代市教育委員会社会教育課内）
印　　刷　有限会社八 千 代 印 刷
千葉県八千代市大和田309